

第 195 号

ほほえみの会

2018.8.12

<2018.8.12 277回 ほほえみの会>サバイバー2人を含め5人が参加しました。

▼3歳女の子、脳腫瘍。かかりつけのクリニックで頭が痛く吐き気もあると言ったが、夏バテだとか精神的なものだと言っていた。頼み込んで総合病院への紹介状を書いてもらい行ったところすぐにこども病院へ行くように言われ救急車で移動した。

すでに4センチの腫瘍がありいつ呼吸が止まっても不思議はないと言われ緊急で手術をした。今腫瘍の検査をしているが、今後抗がん剤やがんセンターで陽子線治療を受ける。入院して1か月がたってようやく現実味を帯びてきた。

ただ、会に参加して小児がん体験者が元気に生きていて笑顔で話す様子を見て、入院して不安がいっぱいのお母さんもよかったと話していました

▼32歳、肝がんサバイバー、放射線技師。治療中に病院スタッフがかっこよく見えて技師になった。10歳で発病、14歳で再発。退院して学校へ戻った時に、勉強はわからない、体力はない、流行もわからないで居場所がなかったことが辛かった。いまだ再発の不安はある。病気のことは他人に話せない。話せる仲間がほしい。

▼31歳、神経芽腫サバイバー、病院勤務。3歳の時に入院したがつらい治療のことは何も覚えていない、逆に入院中の楽しいことは覚えている。親が子供に対して申し訳ないという気持ちをもつことは必要ない。